



一筆の心は月夜に照らす

庭の石燈籠は静かに光る

白き雪は静かに降り積る

柳の影は水に揺らめく

秋の夕陽は空を染める

新緑の葉は風に揺れる

春の朝霧は山を隠す

雪の降る夜は静か

花の匂いは春を告げる

月夜は静かに照らす

朝の光は空を染める

夕陽は静かに沈む

雪の降る夜は静か

柳の影は水に揺らめく

秋の夕陽は空を染める



上段の書は伊賀守の故足重の書也

仁孝の書は又今も書にありて丁未の書也

足重の書は又田世書に換換の書也

口下りの書は又換換の書也

去りて書に上段の書にありて

伊賀守の書也

高野の書は又田世書に換換の書也

口下りの書は又換換の書也

伊賀守の書は又今も書にありて

高野の書は又田世書に換換の書也

口下りの書は又換換の書也

伊賀守の書は又今も書にありて

高野の書は又田世書に換換の書也

口下りの書は又換換の書也

1184111

伊賀守の書

高野の書



峯山翁消名書蹟生蹟
 二通雖匆率一之作以足
 以見其道勁之氣矣書
 中所謂東萊博義想
 小林君志請書人如欽

奉石渡金桂鑒啟



諸名流簡牘

甲

蓄堂題簽



特別
手6
3890
255

門 手6
號 3890
卷 255

昭和二十六年
六月二十七日
購求

